

## 国・府・鉄道事業者と現地調査・基本設計に着手

北大阪急行線の延伸が新たな局面を迎えていきます。いまから40年以上も前に策定された市の総合計画で、すでにその必要性が諷われていた北急延伸。この延伸で、新大阪、梅田、難波など、大阪の大動脈「地下鉄御堂筋線」と箕面市が直結し、みどり豊かな住宅都市としての箕面市の魅力に都心部への強力なアクセス性、利便性、環境性が加わり、市域全体

で住宅都市としての価値がよりいっそう高まります。

さらに、鉄道延伸とあわせたバス路線網の再編により、これまでの千



## ◆nagomi◆ 倉田市長は二児のPa Pa ◆nagomi◆nagomi◆nagomi◆nagomi◆nagomi◆nagomi◆

以前、イクメン市長で話題になった倉田哲郎市長。ふだんは仕事の書き込みだけの市長のツイッターにも、たまにお子さんやご家族に対する愛情を感じられる書き込みが見つかります(イクメンとは育児をする父親のこと)。

◆たとえば、つい最近、家族で映画を見に行って、「いまの『えもん』は声優陣が昔と変わったので、子どもが見始めて久しぶりに見たときは違和感あったけど、もう慣れた。子どもも大好き。やっぱり『えもん』は不滅だ!」(2012.3.3)

◆お次は、お子さんの成長のようすを見ての「ママ」。「我が家の一歳児。ママ」は呼ぶけど「パパ」と言わない。いろいろ試すと「アンパンマン」も「マンマンマン」になるので、まだ物理的に「パ」が発音できないことが確認できて安堵(笑)…しばらく「アンパンマン」で確認を続けよう

(2012.1.24)

以前、イクメン市長で話題になった倉田哲郎市長。ふだんは仕事の書き込みだけの市長のツイッターにも、たまにお子さんやご家族に対する愛情を感じられる書き込みが見つかります(イクメンとは育児をする父親のこと)。

◆たとえば、つい最近、家族で映画を見に行って、「いまの『えもん』は声優陣が昔と変わったので、子どもが見始めて久しぶりに見たときは違和感あったけど、もう慣れた。子どもも大好き。やっぱり『えもん』は不滅だ!」(2012.3.3)

◆お次は、お子さんの成長のようすを見ての「ママ」。「我が家の一歳児。ママ」は呼ぶけど「パパ」と言わない。いろいろ試すと「アンパンマン」も「マンマンマン」になるので、まだ物理的に「パ」が発音できないことが確認できて安堵(笑)…しばらく「アンパンマン」で確認を続けよう

(2012.1.24)

## ◆市民の皆さんからの



## をご紹介します◆

## 市立病院ガンバッてますね。

市立病院がガンバっていることを聞きました。専門的なことは分かりませんが、がん、脳卒中、糖尿病などの病気になつたときには、市立病院とかかりつけ医が一緒になって診療をすることがあります。ふだんのかかりつけ医はよく診ていただいているので安心なのですが、さらに専門医のいる市立病院との連携は頼もしく思います。

また、リハビリテーションを365日休まず実施すること。いつもはあまり考えたこともないのですが、入院しても1日も早く退院できるため、新たな取り組みが始まっています。いざというときに、しっかりと守ってもらえる市立病院として、また一步進んでくださるようで、とても安心です。(M.Hさん)

倉田哲郎さんのブログ 37歳の日誌  
<http://blog.kurata.tv/>

検索

ツイッター(つぶやき)へも、ココから！

携帯電話でも見られます <http://mobile.kurata.tv/>



# 箕面まちづくりニュース

# “市民のチカラ！”

2012年5月号

箕面の明日をつくる会 Fax 727-4326 箕面市小野原西1丁目10番34号

熱  
き  
志

## トップギア 力強く加速します！

倉田哲郎市長が市民の皆さまの信託を受け、箕面市長という重責を担つ

て早や4年。この間、愛すべき箕面にこだわり、箕面に住んでいてよかった、箕面に住みたい、ずっと住み続けたい、そう感じていただけるまちづくりを志し、また次世代を担う子どもたちに自信を持つて引き継げる箕面であることにこだわり続け、自らが動くことを旨として、変えるべきは断固として変え、伸ばすべきは思い切って伸ばすという一貫した姿勢により、箕面は着実に発展してきました。

具体的には、府内で初めての幼稚園、小・中学校の100%耐震化やオレンジゆづるバスの運行。保育所待機児童対策などの子育て施策やシニア塾・シニアナビの開設、山なみ景観や緑の保全、そして北急延伸の基本設計着手など、幅広い取り組みが展開されています。



その一方で、財政バランスの復元も着実に進められ、市の基金のV字回復という成果も表れています。

倉田哲郎市長は、今年の8月に行われる箕面市長選挙に立候補することを市議会において表明しています。

まちづくりは、最も10年を一区切りとしてとらえていく必要があるというのが、倉田哲郎市長の持論です。今回の“市民のチカラ”では、将来を見据え、トップギアで加速し、まちづくりに全力を尽くす倉田哲郎市長のこれまでの成果の一端を紹介します。

## 箕面の明日をつくる会 講演会

日程: 7月14日(土)

時間: 17時30分開場 18時30分開演

場所: グリーンホール(市民会館)大ホール

弁士:

**倉田哲郎** (箕面市長)

**國定勇人** (新潟県三条市長)

主催:箕面の明日をつくる会  
箕面の未来に向けて挑戦し続ける倉田哲郎市長の行動の軌跡を綴ったブログです。

37歳の日誌－箕面市長 倉田哲郎ブログ <http://blog.kurata.tv/>

## 稻にできる “多世代交流センター”

倉田哲郎市長は、高齢者の皆さまが安心して元気に長寿を謳歌できるまちをめざしています。そのためには、活動と活躍の舞台が欠かせません。

老人福祉センター「松寿荘」もその一つですが、昭和48年開設の建物は老朽化し、増改築により動線が複雑になっていることや、オレンジ色のバスが玄関前まで乗り入れできないなどの状況を解決するため、稲6丁目の「旧清掃工場跡地」に新設整備が進められています。同時に、老朽化や運営赤字の増大の課題を抱える養護老人ホーム「永寿園」や、介護を支える特別養護老人ホーム、子育て支援センターも併設する計画で、「多世代交流センター」として平成25年春に開設が予定されています。



特筆すべきは、その整備手法です。倉田市長は、公共施設単体ではなく市域全体を見渡し、公共施設の空白地域であった小野原地区、豊川支所や旧清掃工場跡地の有効活用、図書館改革など、長年手つかずだった複数の懸案課題を連結し、「施設再編プロジェクト」としてダイナミックで緻密な構想を発案しました。そして、国の補助金・交付金の活用や民間法人の参入による財源の確保など、市の財政負担を最小限に抑えながら課題解決するという、みごとな行政手腕を発揮しました。

防災改革にその実行力とリーダーシップを発揮しています。市民の命を助けられない。「大切なのは、地域のつながりだ」と、ゆるぎない信念をもつて、倉田哲郎市長は市役所が災害対応に全力を尽くす市は当たり前。でもそれだけでは、組んでいただけの支援が精力的に行われています。

## 府内トップクラスの対応で 保育所待機児童ゼロへ

少子高齢化社会といわれますが、実は箕面市は全国でも珍しく子どもたちが増えています。もちろん人口も着実に増加し、すでに13万人を突破。まさに、これまでのまちづくりの成果の表れです。

とくに、子育て支援においては、「小さな子どもを安心してあずけたい。」働きながら子育てをする世帯の保育ニーズに対し、「待機児童ゼロプラン」を策定して、保育所の定員拡大を積極的に進めています。

平成23年には、第二総合運動場の一部の活用や、とどろみの森学園の敷地内の整備、本年4月には、彩都にも整備するとともに、既存の保育園を増築するなど定員拡大が図られています。来年度以降も、箕面森町での新設など、ゼロプランの目標の330人を大きく超えて、最終的には400人以上の保育所受入れが拡大する見通しとのことで、府内トップクラスの保育所増強計画となっています。

また、保育所の定員増だけではなく、「子育て支援の新展開」として、私立幼稚園の保護者負担の軽減や一時保育施設の増設など、保護者に「保育所以外の選択肢」を提供するとともに、子育て支援センターも充実し、総合的な子育て支援策を展開しています。

「厳しい財政状況でも子どもたちの世代にツケをまわさない」と財政改革を進めながらも、「子育てしやすさ日本一」に向けて思い切った積極投資を行う倉田哲郎市長。将来まで見通したぶれない政治姿勢がここにも示されています。

## 図書館が 簡単・便利・親切に

図書館サービスがさらに充実しました。この4月から自動貸出機などが導入され、本の貸出・返却が利用者自身で簡単にできるようになりました。その分、図書館司書は利用者お一人お一人への丁寧な対応に時間を割くことができています。

ほかにも、今話題のiPadの貸出しや、無線LANも設置されたのでパソコンを持ち込んでネット検索することもできます。さらに、図書購入費を年間2倍に増強。加えて、小野原には平成25年5月に新たな図書館も開設され、将来的には北部地域にも新設予定となっています。

それでいて、図書館全体の運営経費は従来より縮減させたとのこと。倉田哲郎市長は、コストを下げながらサービスの充実を果たす…という課題に挑戦し、みごとに成し遂げました。ここにも、既成の考え方から離れて、改革目標を不退転の決意で具体化する倉田市長の発想力と実行力が表れています。



2011年9月16日付 毎日新聞  
毎日新聞社許諾済み



具体的には、市民の命を守るために、避難所となる小・中学校への2万人分の食糧備蓄や、飲料水確保のために全校の貯水槽の耐震化なども進められています。また、大規模災害時に迅速な対応を可能にする「災害別宣言条例」が制定され、75歳以上で一人暮らしの方などの名簿を平時から避難所に封印して備え、いざといために安否確認ができる体制が整っています。

## 防災改革に 全力投球！

年度	月	主な施策と出来事
20	8	・第15代 箕面市長に就任(8/27) 9・新御堂突き当りの開発に異議を唱え、議会とともに行動を起こす 12・財政構造改革の「緊急プラン(素案)・ゼロ試案」を公表 1・「ゆずともみじの里・みのおプロジェクト」公表 2・平成21年度予算案を発表(6年ぶりに経常収支を黒字転換)
21	5	・箕面グリーンロード(トンネル)の値下げるに向けた社会実験を実現 8・「箕面市・緊急経済対策プロジェクト」を発表 9・サル餌やり禁止の条例を議会で議決 10・保育所の待機児童数をゼロにする「箕面市待機児童ゼロプラン」を発表 11・コンビニエンスストアで「ふるさと寄附金」の納付ができるよう構造改革特区を提案 2・平成22年度予算案を発表(2年連続で経常収支を黒字化) 3・障害者の自立へ向けた制度創設のため、箕面市で実績のある「社会的雇用」制度を国へ要望
22	5	・滝道で「川床」復活の実証実験 6・市立のすべての小・中学校で「学校防犯システム」を順次稼働 7・「箕面・世界子どもの本アカデミー賞」を創設 8・かやの広場に「箕面中央朝市」をオープン 9・新たにバス交通「オレンジ色のバス」の実証運行を開始 10・「第1回箕面国際シニア演劇フェスティバル」を開催 12・空き缶等の持ち去りを禁止する条例改正を議会で議決 ・箕面市カラスによる被害の防止及び生活環境を守る条例」を議会で議決 1・箕面駅前から箕面大滝までを路上喫煙禁止地区に指定 2・平成23年度予算案を発表(3年連続経常収支を黒字化。前年度より改善) ・野生動物による農業被害を軽減する取り組みとして「鳥獣対策チーム」を発足(大阪府内初) 3・東日本大震災の発生に伴い、大阪府内にいち早く職員派遣・義援金受付・救援物資の搬送の実施 ・東日本大震災による一時避難者の受け入れ開始 ・私立幼稚園の保護者への補助金を引き上げる条例等の改正を議会で議決 ・大阪府内初、市立小・中学校・幼稚園の耐震化率100%を達成
23	4	・止々呂美に自然を満喫できるアウトドアスポット「スノーピーク箕面自然館」「スノーピーク箕面キャンプフィールド」がオープン ・施設一体型の小中一貫校「彩都の丘学園」を開校 ・箕面市の人口が13万人に到達 ・池田泉州銀行との連携により箕面駅前に「デジタルサイネージ」を設置 7・「箕面大滝・滝道ライトアップ」で、すべての照明機器をLEDに置き換え、消費電力を削減(前年度比で80%削減を目指す) 8・静岡県富士宮市と「災害における相互応援に関する協定」を締結 ・船場地区への国立循環器病センターの誘致意向を表明 9・住民票の写しなどの証明書発行サービスを、一部の図書館に拡大 ・図書館を2館新設し、現在の6館体制よりも少ない経費で8館体制を確立する「知の拠点づくりアクションプラン」を発表 10・東日本大震災を受け、箕面市の防災体制を見直すため「箕面市防災改革の基本方針」を策定 ・公立小学校・保育所における給食食材の放射性物質検査を実施 ・警察官が定期巡回する地域防犯活動拠点として全市立小学校に「地域安全センター」を設置 ・地域の見守りと環境美化のため、「箕面わんわんマナー」ネットワークと協定締結 11・「ゆるキャラグランプリ」で滝道ゆするが全国第9位、近畿地区第1位にランクイン! 12・小さなお子さまが楽しく過ごせる場として、市役所に「キッズコーナー」をオープン ・平成25年9月から全市立中学校で自校調理方式での給食開始を発表 1・余野川ダム負担金が国から異例の返還決定へ ・全国のコンビニエンスストアにおける、本市へのふるさと納税の寄附受付の開始(全国初) 2・平成24年度予算案の発表(4年連続で経常収支を黒字化。前年度より改善) 3・滋賀県による放射性物質拡散予測結果をうけ、同県と協力体制について確認し、また市独自の空間放射線量の定点観測の実施を発表 ・子どもたちの「学力・体力・豊かな心」をバランスよく育むため、市独自の「箕面学力・体力・生活状況総合調査」の実施を発表 ・大規模災害時に迅速に対応するための「災害時特別宣言条例」を議会で可決 ・北急延伸に向けて鉄道事業者と「北大阪急行線の延伸に係る確認書」を締結